

令和2年度を振り返って

関市少年センター所長 島田 美佳

市民の皆様には、日頃から少年センターの取り組みにご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、令和2年度を振り返りますと、新型コロナウイルスの感染拡大により、私たちが経験したことのない脅威に見舞われた一年でした。学校の臨時休校に伴い、子どもたちを取り巻く環境にも大きな影響を与えました。このような生活環境の変化によって、様々な不安やストレスを抱えたまま生活している子どももいることが懸念されます。そこで少年センターとしましても、より一層注意深い目を子どもたちに向けながら、休校中や学校が再開されてからの通学路をはじめ、特に子どもたちが出かけそうな店舗や公園付近を中心に巡回パトロールを実施しました。



また、各地域におかれましては、感染防止のため補導活動の一部を自粛していただいておりますが、少年補導員連絡協議会をはじめ各種関係機関による皆様のご協力により、自主的な見守りや補導活動を行っていただき、青少年の非行防止や犯罪抑止に努めていただいているところであります。

幸い市内では、自転車の二人乗りなどのルール違反を注意するなどが殆どで、重大・凶悪な事例はなく、平穏に推移しています。

令和2年中（4月～12月）の関警察署管内で検挙された非行少年（刑法犯少年、特別法犯少年等）は16人で、前年と比較すると15人減少しました。また、不良行為少年として補導された少年は591人で、前年と比較してほぼ同数でした。非行少年では万引き事案が多く、不良行為少年では、深夜はいかいと喫煙で補導された少年が大半を占めています。

近年は青少年の行動も変化し、街頭で集うような光景はあまり見かけなくなりましたが、反面、スマートフォンなどの普及に伴う新たなトラブルが増加しております。少年センターとしましても、こうした時代の変化に対応した対策が求められております。



今後とも、少年の非行を防止し、関係機関や関係団体と連携を密にしなから、地域に根差した活動、そして地域の担い手である子どもたちを地域で守り育てる機運を高める活動に取り組んでまいりますので、ご指導、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

今日もいい日だ！

先日のテレビ番組で、関市出身の歌手LiSAさんが、過去にオーディションに何度も落ち続け、デビューの糸口も見えない中で、上京前に母から伝えられた「今日もいい日だ！」の言葉を寝る前に自分に言い聞かせていたことが紹介されていました。「子どもの頃から幸せ見つけが下手くそだったから、こういう言葉を送ってくれたのだと思う」と涙を流しながら母との思い出を語っていたのに感銘を受けました。

どんなにつらいことがあっても日々に感謝し、充実した毎日を過ごすことは難しいことですが、青少年に限らず全ての人たちにとって大切なことだと思いました。

我が子の非行化を防ぐ20ヶ条

- 1) 幼い時から、温かく接すること。スキンシップや遊び相手になる。
- 2) 子どもが欲しがるからといって、ホイホイ買い与えない。子どもを親の思うとおりにはしようと思って世話しすぎない。
- 3) 子どもの間違いや失敗は、まず理由を聞くこと。理由を聞かずに叱りとばしたり、ましてや叩いたりしてはいけない。
- 4) しつけと教育の責任を、学校に任せっぱなしにしない。
- 5) お小遣いが欲しいと言ったら、それが必要なものなら、いちいち小言を言わずにちゃんと渡す。
- 6) 子どもとの約束は必ず守る。
- 7) 食卓の団らんが大切。子どもの話題で盛り上がりとなおよい。
- 8) 子どもが、どこで、何をして遊んでいるのか関心をもつ。どういう相手と遊んでいるのかも関心を持つ。
- 9) 子どもに命令して、服従を強制しないこと。子どもの人格や主体性をちゃんと認める。
- 10) できのよい兄弟や、よその子と比較しない。「おまえはバカだ、誰々を見習え！」などと言わない。
- 11) 子どもの中で他人の悪口を言ったり、あら探しをしたりしない。
- 12) 感情で物事を解決しない。暴力に訴えたり、集団の力を悪用したりすればいい、ということ子どもに教えない。
- 13) 子どもがよいことをしたり、努力したら、しっかり褒める。ごまかしや裏切りなどは、決して許さない。
- 14) 子どもの前では、夫婦の意見を一致させる。難しい問題から逃げない。
- 15) 子どもとの異性の友達のことを、不潔呼ばわりしたり、悪口を言ったりしない。
- 16) 子どものためにした苦労や犠牲を、繰り返し話して、恩に着せたりしない。
- 17) お金こそすべて、という価値観を持たない。精神生活の大切さを教える。
- 18) 子どもの中で、法律、警察、学校、役所の悪口を言わない。社会の決まりや公共機関への敵意を植えつけない。
- 19) 社会や人のため、犠牲、奉仕の心の大切さを教える。自分のことばかり考えない。
- 20) 夫婦仲良く、会話をすること。



「これは、できていないな」と感じる項目が、いくつあったでしょう。

子どもたちは、大人には想像できない悩み、不安を抱えていながら、親にも先生にも言えず苦しんでいることがあります。誰かが親身になって話を聴いていれば、解決できる事例もあるはず。「子どもが言わない」のか・・・、「大人が言えない状況を作っている」のか・・・、いずれにしても、私たちが子どもの心をもっと知らなければ、悲劇の続発を防ぐことはできないでしょう。
